

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.23

2016.4

数字でみる乳がん



今回の乳がん高度検診・治療センターNEW-すでは、国立がん研究センターがん対策情報センター(<http://www.ncc.go.jp/jp/cis/index.html>)の情報をもとに、乳がんに関する最新の統計学的データをお示します。出典がそれ以外のものは()内にお示しました。

● 今なお増加しているわが国の乳がん

乳がんは1990年代後半に女性のがんのトップに躍り出ましたが、その後も年々増加し続けています。2011年の全国推計値では72,472人でしたが、昨年出された「2015年のがん統計予測」によると乳がんにかかる人の数は89,400人(女性のみ)と推定されています。これは貝塚市の推定人口(2015年2月末 89,035人; 資料 貝塚市ホームページ)にほぼ匹敵する数字ですので、いかに膨大な数かわかりいただけると思います。

とくに日本人の乳がんは40歳代後半にピークがあり、比較的若い年齢層のがんであり社会的にも影響が大きいわけです。

● 死亡する方も増加

「2015年のがん統計予測」によると2015年に乳がんできつくなる方は13,800人と予想されています。実数はまだ明らかになっていませんが、死亡数はなお微増傾向にあるもののほぼ横ばいに近い状況です。女性のがん死亡のうちでは、大腸、肺、胃、膵臓に次いで第5位ですが、それでも交通事故死(2015年度4,117人; 資料 警察庁ホームページ)の3倍超ですので決して少ないものではありません。

● なのに・・・乳がん検診後進国という実態

国民生活支援調査による推計値では2013年に40～69歳での乳がん検診受診率は34.2%であり少しずつ向上はみられます。ただ、欧米での受診率は70～80%ですので、それに比べるとまだまだ低いのが実情です。毎回の調査で大阪府は常にワースト5に入るので、貝塚市についてみると大阪府下では高い率であり喜ばしいことです。

● 多くは治りやすいがん

乳がんは他のがんに比べて、早期の段階に発見できればなおやすいがんの部類に入ります。乳がんの病期(ステージ)別の5年および10年生存率を以下に示します。早期発見によりなおやすいがんですので、マンモグラフィ検診や自己検診の励行により乳がんから身を守りましょう。

✿ 乳がんの5年および10年生存率 ✿

病期	5年生存率	10年生存率
I 期	96.8%	86.6%
II 期	92.4%	79.3%
III 期	77.0%	50.3%
IV 期	31.6%	14.5%

(資料: 公益法人がん研究振興財団「がんの統計'15」より全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における生存率を引用)

ただ、最近では病期よりも、エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体、HER2(ハーサー)などの組み合わせにより決まるサブタイプが術後の治療方針決定などには重視されますが、これについては次号で説明いたします。

さらに詳しいことをお知りになりたいことがありましたら、乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。



市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

